

精神科病院の経営状況 について

精神科病院の危機

日本精神科病院協会
2009/12/10

精神科病院の経営状況について

はじめに

平成19年度における1病院当たりの精神科病院の赤字割合は、全体の19.0%（図1）で約2割の病院は、早急な対策を必要としている。

また黒字病院でも経営安全率が2%を割るいわゆる「経営破綻要注意病院」も、12.2%（図2）と相当数ある。

（経営安全率＝ $(1 - (\text{損益分岐点医業収益高} \div \text{医業収益高}))$ ）で、2%以下は、危険水域である）

赤字病院と経営安全率が2%を割る「経営破綻要注意病院」を合わせると、全体の約3割強が深刻な経営問題に直面している。

深刻な経営状態は、「生き延びるための資金調達（銀行借入等）」にも当然悪影響を及ぼし、時間的な猶予もない。

経費面では、看護基準7：1の影響を受け人件費は高騰等、あらゆるコスト削減を図っているが費用全体では増加している。

一方収入面では、精神科病院はその8割を入院収入が占めている。しかし収入増の主だった手立ては、一般病院のように幅広くなく、「看護基準の上位取得」が主たるもので、それもコスト見合いで限界に来ている。

「経営破綻要注意病院」以上が現状3割強あり、また資金調達環境悪化も手伝い、今後増加する可能性がある精神科病院の崩壊を防ぐには、収入構造の8割を占める入院収入の基礎となる「入院基本料」の引き上げは必須である。

また前回+0.38%とした診療報酬本体部分の改定は、一般病院には7.1%の医業収入増加をもたらしたが、精神科病院は+1.9%に留まっている（図3 中医協21/6 実態調査より）。

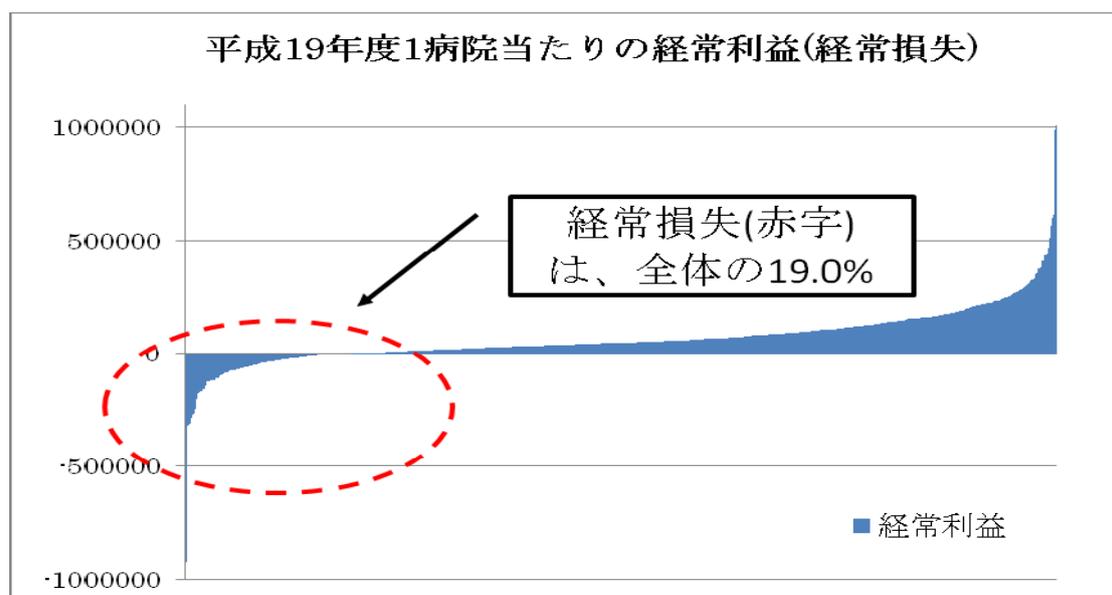


図 1



図 2

		一般病院全体(除く個人)				精神病院全体(除く個人)			
		100床当たり収支				100床当たり収支			
		19年6月	21年6月	増減	伸び率	19年6月	21年6月	増減	伸び率
		千円	千円	千円	%	千円	千円	千円	%
a	医業収入	126,168	135,120	+8,952	7.1	44,791	45,661	+871	1.9
b	1 入院収入	85,379	90,565	+5,186	6.1	37,834	38,998	+1,164	3.1
c	1人1日当り収入単価 円	28,460	30,188	+1,729	6.1	12,611	12,999	+388	3.1
d	2 療養環境収入(室料差額)	1,572	1,798	+226	14.4	169	219	+50	29.7
e	3 外来収入	35,963	37,979	+2,016	5.6	6,343	5,677	▲666	-10.5
f	4 その他の医業収入	3,255	4,778	+1,523	46.8	446	768	+322	72.2

図 3

以下、日精協の調査より、1病院における、医業収益、医業費用等を分析し、今後の経常利益予想等を分析することとした。

1. 経常利益は連続5年間、減少している

日精協の総合調査報告では、精神科病院の経営状況は、表①のように経常利益(注:1)が平成15年度より、5年間連続で減少している。平成15年を100とした場合平成19年には84となっている。(表①)

注:1 税引前当期利益は、各年の臨時的な収支が影響するので年度比較する場合は経常利益比較とした。

表①	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年
経常利益	100	90	88	87	84

総合調査報告書は、病床数と医業収益は、強い相関関係がある為、100床当たりの数値に置き換えて比較をしている。しかし、精神病院の経営状況傾向をみる場合は、1病院の平均値等見る方が望ましい。

2. 医業収益と医業費用の推移

表②のように医業収益も増加しているが、それ以上に医業費用が増加しているため、経常利益が減少しているという状況である。マイナス改定に関わらず、医業収益が増加しているのは、精神科病院の特性で、看護配置基準を上げることによる影響と考えられ詳細は後述する。平成15年を100とすると、平成19年度の医業収益は、102.7に対し、医業費用は、103.9となっている。

表②	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
医業収益	100.0	100.3	101.5	101.4	102.7
医業費用	100.0	100.6	102.1	102.2	103.9

医業費の6割近く占める給与費は、年々増加し、医業収益に対する人件費率は、医業収益増加にも拘らず、年々増加して平成19年には58.1%を占めている状態である。

精神科病院においては、人件費の増加率は、医業収益の増加率より大きく、経営をかなり圧迫している。(H15年→H19年=医業収益2.7%増、人件費7.2%増)図4

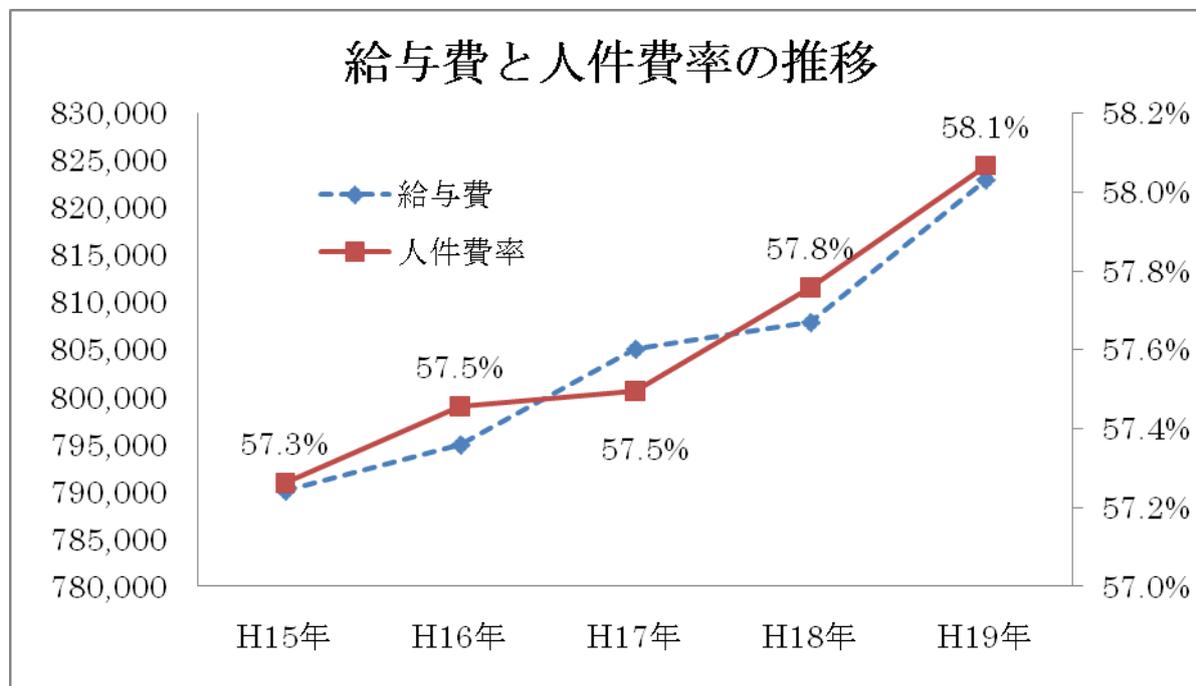


図 4

黒字病院の人件費率は、56.5%で0.5ポイント増となっているのに対し、赤字病院は、63.1%と1.1ポイント増で、赤字の要因となっている。(表③)(図4の平均値と数値が異なっているのは、個々の病院の数値を平均したものである)

黒字、赤字病院の人件費の推移

表③	H18	H19
赤字病院	62.0%	63.1%
黒字病院	56.0%	56.5%
全体	57.0%	57.7%

3. 医業収益は、何故増加しているのか。

入院患者は、減少傾向にもかかわらず、入院単価が増加している。そして医業収益がマイナス改定にもかかわらず、何故増加しているかを分析する場合、精神科病院の医業収益の8割を占める入院料に限定して、看護配置の変更に焦点を当ててみることにした。

平成18、19年と2年連続のデータ559病院で、看護配置を変更した病院、看護配置を変更していない病院に分け医業収益・費用・経常利益の比較を試みた。包括のみの病院は、除かれる。(表⑥)

医業収益表④

1病院あたり	H18	H19	H19-18	病院数	構成	増減
全体	1,426,946	1,448,858	21,912	559	100.0%	1.54%
変化なし	1,448,383	1,468,185	19,802	483	86.4%	1.37%
基本料 Up	1,290,393	1,341,045	50,651	64	11.4%	3.93%
基本料 Down	1,292,376	1,245,974	▲ 46,402	12	2.1%	-3.59%

医業費用表⑤

1病院あたり	H18	H19	H19-18	病院数	構成	増減
全体	1,363,459	1,384,130	20,671	559	100.0%	1.52%
変化なし	1,381,824	1,401,165	19,341	483	86.4%	1.40%
基本料 Up	1,244,322	1,278,461	34,139	64	11.4%	2.74%
基本料 Down	1,259,670	1,262,047	2,377	12	2.1%	0.19%

経常利益表⑥

1 病院あたり	H18	H19	H19-18	病院数	構成	増減
全体	72,434	72,499	65	559	100.0%	0.09%
変化なし	75,320	74,208	▲ 1,112	483	86.4%	-1.48%
基本料 Up	53,287	72,437	19,151	64	11.4%	35.94%
基本料 Down	58,418	4,041	▲ 54,377	12	2.1%	-93.08%

医業収益は、全体で 1.54%増に対し、基本料 Up 病院は、3.93%増と大きく、変化なし病院は、自然増 1.37%であった。（表④）

医業費用は、基本料 Up 病院が一番多く、人件費増が影響している。（表⑤）

経常利益では、全体で、横ばい状態で有るが、基本料を上げている約 1 割強(11.4%)の病院が、8 割強(86.4%)の変化なしの減少している病院を引き上げていることが判る。

固定費は、年々上昇しており、医業収益の増減で有る看護配置を上げることは、限界が来ている。（表⑥）

4. 医業収益横ばいの場合の利益の推移

医業収益の影響を受ける看護配置 UP が、限界に来た時、医業収益が上がらない場合、平成 24 年には、医業利益は赤字となることとなる。図 5

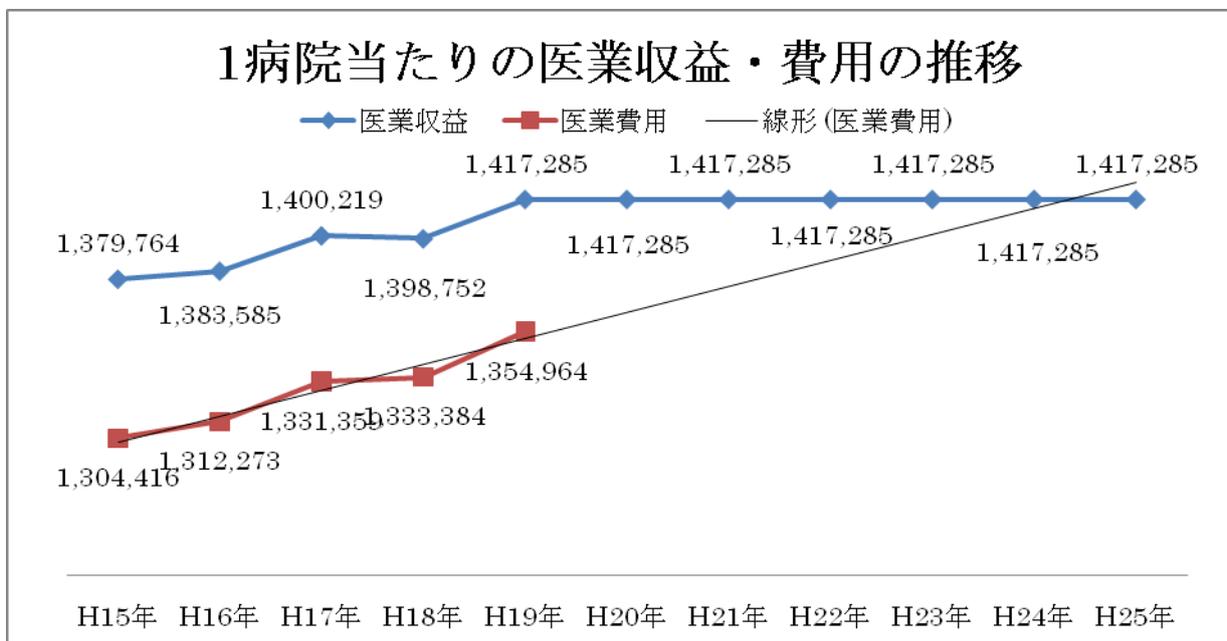


図 5